

## 戦略型コース設計の思想と系譜 / Concept and Background of Strategic Golf Course Architecture

理想的なコースをめざした設計家の発想

ゴルフ・ジャーナリスト 西沢 忠

Tadashi Nishizawa

Golf Journalist

戦略型コース設計とは？

ゴルフ・コースを、設計家の作品として見るジャンルに慣れていない日本でも、最近“日本のベスト・コース・ランキング”などという企画を取り上げる雑誌媒体が出てきた。

ただし、それは純粋な作品としての評価に終始するのではなく、運営サービス（キャディの質、都心からの交通便、会員権の数字的多寡など）が多分に加味されているようで、まだまだイタダケない。

その点、アメリカのゴルフダイジェスト誌が隔年で発表する“アメリカの偉大なコース100”はすでに30年以上の歴史ある看板企画で、選考委員の中にコース設計家を入れない見識とあいまって信頼がおける。

そのトップ・ランクが当初から『パインバレー』で不動なのはいいとして、1970～80年代にかけてベスト3のなかに『オーガスタ・ナショナル』、『サイプレスポイント』、『ペブルビーチ』がその都度入れ替わるのが面白かった。『オーガスタ』でいえば、1981年にグリーン芝をベントに張り替えたのも、以前のバミューダ芝がポーアンヌに占拠されて不評で、このランキングの下位に低迷したことが原因とも考えられた。つまり、コース・ランキングの評価はたんなる覗き見趣味にとどまらないで、歴史あるコースでさえも、オリジナルな設計思想をいつまでも守る維持努力を怠ることを監視する役目もあったのだ。

しかし、あれ以来今日まで『オーガスタ』の2位は不動で、“戦略型設計の最高峰”と栄誉あるレッテルを貼られている。それは多分にマスターズ・トーナメントの舞台であり、恒久的に舞台が変わらないメジャーのひとつであることとも関連しているのだろうが、果たして、“戦略型コース設計”とはどんな思想で、どんな系譜をたどってきたのか考えてみたい。

70年ほど前に、A・マッケンジー博士とB・ジョーンズがめざしたオリジナルな発想は、今日の『オーガスタ』と同じ姿なのだろうか？

マッケンジーの戦略性

“初めにリンクスありき”で、コース設計の出発点が『セントアンドリュース・オールド』に代表されるリンクスランド・コースであることに異存のある人はいまい。砂丘の草原地帯に自然発生的に誕生したリンクス・コースはボール・ゲームとしての醍醐味を味わうのに都合がよいものだけが残った。隠れたところにポット・バンカーがあるのも、「ハザードはどこにあってもアン・フェアではない」と賞賛された。トム・モリスを筆頭に当時の強いスコットランドのプロが副業として設計したのも、自分たちが経験した名リンクス・ホールのコピーを心がけただけと思われる。

なにしろ彼らのやった設計とはティーとグリーンの位置を指し示す旗を持って歩き、予定地に突き差してくるだけの作業だったらしい。だからそのほとんどは、後世のコース研究家によると、“ペナル・スクール（科罰型）”設計であったと学術的に分析された。

そして、その対極に位置する設計が“ストラテジック・スクール（戦略型）”と呼ばれるが、それは歴史家が後から考え出した学問的なククリ方に思えてならない。

では、“strategic”という用語を最初に使ったのは誰か？

ゴルフ用語辞典（「The Historical Dictionary of Golfing Terms」）によると、A・マッケンジーらしい。

マッケンジーは1914年、アメリカのゴルフ誌『カントリーライフ』が主催した“理想的2ショッター・ホール”の懸賞に応募し、特賞を獲得したのがきっかけで、軍医を廃業して設計家に転業した。それは海岸の砂丘地帯に設定した420～450ヤードのホールで、ティーからグリーンまで腕前に応じて5本のルートを用意したもので、天候やその日の調子によってAlternative（二者択一）できる設定だった。

その後、1920年に彼は『Golf Architecture』という著書を発表する。そこで彼は『セントアンドリュース・オールド』の11番や16、17番ホールの戦略性を研究・解説しているのだが、神の手になるオールド・コースにいくつもの攻略ルートがあり、それがプレイヤーを魅了しているのだと力説する。

偶然だが、1920年のこの年には世界で初めて大学卒の設計家たち、ハリー・コルトとチャールズ・アリソンも『Some Essay on Golf Course Architecture』を発行している。彼らも古いスコットランド・リンクスの名コースに学び、近代的な設計術を提唱しているのだが、strategyという言葉はあまり使っていない。

先の辞書によると、1926年、マッケンジーがゴルフ雑誌に送った手紙にこう書いたのが初めてらしい。

「In regard to my reference to a “penal” and “strategic” school of golf architecture .....」（私が先にゴルフ設計に“戦略型”と“科罰型”があると述べたことに対してですが.....）

リンクスを手本にしたオーガスタ・ナショナル

ケンブリッジ、オックスフォード大ゴルフ部出身のコルト、アリソンと軍医あがりのマッケンジーは一時期、同じ事務所でパートナーシップを築いていたが、両雄並び立たずか、マッケンジーが海外へ設計行脚に出るころ、袂を分かっている。

マッケンジーは単独で地球を南回りでアメリカへ行く。カリフォルニアに10以上の珠玉のコースを設計し、中でも『パサティエンボ』と『サイプレスポイント』を設計したことがボビー・ジョーンズとの結び付きとなった。

二人が知り合った1929年、ジョーンズが28歳、マッケンジー59歳。しかし、世代を超えて二人が意気投合したのは“理想的なコースを設計すること”。それには“スコットランドの名リンクスの戦略的な意味を理解して盛り込むこと”に同意していたからだった。

『オーガスタ』はその工事中からマスコミに騒がれ、マッケンジーはゴルフ誌に寄稿を依頼された。1932年、『アメリカン・ゴルファー』に掲載された“Plan for Ideal Golf Course”もその一つだが、そこには『オーガスタ』を“森の中に造るリンクス”と考え、有名なり

ンクス・ホールの思想をコピーすると語っている。

「At Augusta we are striving to produce eighteen ideal holes, not copies of class ideal holes, but embodying their best features, with other features, suggested by nature of the terrain.」(私たちはオーガスタで18の理想的ホールを生み出そうと努めた。古典的な名ホールをコピーするのではなく、その最良の特性と自然の地形が示唆する特性を具現化することで)

そして、各ホールのアイディアがどの名ホールから触発されたかまで解説する。あの6番、打ち下ろしパー3は『ノースベリック』15番の“レダン”だし、15番グリーン前のウォーターハザードは『セントアンドリュース』1番のスウィルケンバーンだと言うのだ。

理想的なコースとは最大多数のプレイヤーに楽しみを提供する場所であり、その設計上のカギは“技量と同様に戦略性が必要 (strategy as well as skill)”だと主張する。

ラフのない広いフェアウェイ、当時としては巨大なグリーン(平均860平方メートル)起伏の大きい元果樹園の地形……二人の理想追及はかなりの部分で達成されたものと思われる。しかし、1933年の開場、翌年に始まったマスタートズのために改造が繰り返され、二人のオリジナル設計は1ホールとして残されていないという説が多い。1950年代に行われたR・T・ジョーンズ・シニアの改造がドラスティックだったし、2年前からは“セカンド・ラフ”なる短いラフが出現してしまった。

#### ゴルフの魂は戦略性にあり

戦略型コース設計の元祖がマッケンジー博士やコルト、アリソンだけかというところと違ふ。

アメリカにコース設計を持ち込んだC・B・マクドナルドやA・W・ティリングハースト、H・ウイルソンなど1910から1920年代に活躍した設計家もリンクスに学んだ戦略性を独自の設計に生かした。俗に“フィラデルフィア派”と呼ばれる東部の設計家たちの中にユニークな人がいた。ジョージ・トーマスである。

George C. Thomas Jr. (1873~1932)とはフィラデルフィアの富豪貴族の末裔で、父親の遺産を相続したので生涯仕事をしたことがなく、趣味のゴルフと設計、カリフォルニアに移ってからはバラの栽培、狩猟、魚釣りでまっとうした男。設計では『リビエラ』、『ベルエア』、『ロスアンジェルス』などが代表作で、東部時代にはマッケンジーとも親交があった。

第一次大戦では空軍少佐だったので、“キャプテン”と呼ばれたトーマスは1927年に、『Golf Architecture in America, Its Strategy & Construction』なる著書を出版する。『アメリカのコース設計、その戦略と建設』は彼のユニークな設計論で、戦略性こそゴルフの魂だと断定する。

「Strategy is the soul of the game. The spirit of golf is to dare a hazard, and by negotiating it reap a reward.」(戦略性とはこのゲームの魂で、ハザードを恐れず、ハザードと折り合って報酬を獲得することだ)

空軍で戦闘機に乗っていた頃、3回も撃墜された経験を持つトーマスは“危険と報酬(risk & reward)”という言葉の発案者だったらしい。

18ホールの中にはビッグ・キャリアを求めるホール設定があったほうがいい、とする考

え方はマッケンジーにもあったし、マクドナルドが設計した『ミッドオーシャン』5番のように海越えで斜めのフェアウェイを狙わせるホール設定をトーマスが理論付けた。

後世の歴史家はこういう危険区域を越して打つような設計を“英雄型 (heroic)”と名付けた。または俗に“bite-off”ともいう。

危険を乗り越える確かな技量があれば次打が有利になる。その飛距離のない人には1打を費やしても迂回できるルートを用意する。ウォーターハザードや断崖の谷を利用してこんな設計ホールを量産したのがR・T・ジョーンズ・シニアではなかったろうか。

こうしてみると、リンクス時代が“科罰型”、コルト、マッケンジーなど英国人設計家がリンクスに学んだ戦略性を世界に広めたのが“戦略型”、そしてそれをより拡大解釈したフィラデルフィア派が“英雄型”と設計の歴史的流れがあるように思える。しかしながら、これは第三者から見た評論家的見解の一つで、設計する当事者には無関係なことだったかも知れない。

コース設計とはいつの時代にあっても、素材がすべてだからだろう。『Scotland Gift, Golf』を書いたマクドナルドがこう言う。

「一級品のコースを造ろうとするにはよい土地素材で仕事をしなければならない。最上の土地素材とは穏やかな起伏のある、しかも随所に小さな丘のある砂質の地層だ。

そんな素材が手に入ればもう戦いは半分終わったも同然だ。一度仕事が始まれば、理想的コースの完成は、経験と造園、そして計算の問題だけになるからだ」。

## **Concept and Background of Strategic Golf Course Architecture**

**Tadashi Nishizawa**

**Golf Journalist**

**Golf course designing is not a traditional genre of architecture in Japan. Recently, however, more and more magazines have been printing articles with titles such as "Ranking of Japan's Best Courses".**

**Such rankings actually fail to do full justice to the courses, because they are not only based on genuine design works but also on other factors such as operation and services provided (specifically, quality of caddies, transportation facilities from the city center, price of membership, etc.).**

**By contrast, the "America's 100 Greatest Courses" published biennially by the Golf Digest is this magazine's most popular feature with a history of more than 30 years. The ranking is reliable because, for one thing, the magazine follows the principle of never including any golf course architects in the screening committee.**

**While we can understand the reasons why Pine Valley has always been at the top of the ranking, it is interesting to note that during the 1970s and 80s, second and third places were occupied by two out of three courses - Augusta National, Cypress Point and Pebble Beach - and that the order changed every time.**

**Taking the case of Augusta, the Golf Digest's ranking was probably responsible for the fact that the club converted its greens from Bermuda to bent in 1981 - its ranking having fallen because of the unpopularity of Bermuda grass, which had been invaded by poannua. This indicates that the ranking not only provides information, but also plays the role of keeping a watch on historic courses and preventing the work of preserving the original design concept from being neglected.**

**Since that time, Augusta has continually held second place in the ranking. In fact, it has the honor of being referred to as "the greatest example of the strategic school of course architecture".**

**While it is probably true that this honor is largely due to Augusta's being the permanent venue of the Masters Tournament, the only one of the four major championships that always takes place on the same course, it raises the question of what "strategic architecture" really means. The purpose of this article is, in fact, to examine the concept and history of the strategic school of golf course architecture. Is the concept promoted 70 years or so ago by Dr. Mackenzie and Bobby Jones still alive at Augusta today?**

**They say, "In the beginning were the links". No one can deny that the starting point of golf course architecture was links courses, typically the Old Course at St Andrews. Links courses were formed more or less naturally over the years on sandy hills along the seashore with turf and coarse grass - though the only ones to survive were those**

with the potential for genuinely enjoyable golf. Hidden bunkers were favourably accepted in line with the principle that "No bunkers, wherever located, are unfair." Apparently, when laying out courses as a side job, the outstanding Scottish players of the time such as Tom Morris simply tried to copy the holes of the superb links courses on which they had played.

They simply walked onto the site with flags and stuck them in the ground at the places they designated as tees or greens. That is what course designing consisted of in those days. Most of those courses have been categorized by later golf course scholars as the "penal school" of golf architecture.

The other extreme of golf course architecture is known as the "strategic school". However, I feel that this is an academic label invented by latter-day historians. So who was the first to use the term "strategic"?

According to "The Historical Dictionary of Golfing Terms", it was Alister Mackenzie. In 1914 Mackenzie won the special prize in a competition for "an ideal two shotter hole" sponsored by the U.S. golf magazine "Country Life". This led him to give up his job of army surgeon and become a golf architect. The award winning plan was a 420-450 yard hole on sandy hills along the seashore that offered five alternative routes from the tee to the green, depending on the player's skill and condition, as well as the weather of the day.

In his "Golf Architecture" published in 1920, Mackenzie discusses the strategic features of the 11th, 16th and 17th holes of St Andrews, Old Course. He emphasizes that the greatest attraction of this course, which he calls a work of God, is the fact that the player can challenge it from various different routes.

Coincidentally, Harry Colt and Charles Alison, the world's first golf course architects with college diplomas, also published a joint work entitled "Some Essays on Golf Course Architecture" in the same year. Also basing their ideas on what they had learned from the classic Scottish links courses, they introduced modern technology to golf course architecture. The term "strategy", however, is seldom used in this book.

According to the above-mentioned dictionary, the word first appeared in a letter from Mackenzie dated 1926 to a golf magazine which included the phrase, "In regard to my reference to "penal" and "strategic" school of golf architecture ....."

Colt and Alison, both members of their college golf clubs while at Cambridge and Oxford, respectively, and Mackenzie, an ex army surgeon, were once partners in the same office, but broke up when the latter left the country to take up course designing in a number of overseas countries. Perhaps their personalities were incompatible.

Mackenzie went to the United States via the southern hemisphere. There he designed more than 10 fascinating courses in California, including the Posatiempo club and Cypress Point, through which he met Bobby Jones.

Jones was 28 and Mackenzie was 59 years old when they got to know each other in 1929. Despite the age difference, they recognized a kindred spirit in each other because they

**both believed in creating ideal courses embodying the strategic features of Scottish classic courses.**

**Augusta received a lot of attention from the media while it was still under construction, and Mackenzie was asked to contribute to various golf magazines. In his "Plan for Ideal Golf Course" carried in the American Golfer magazine in 1932, he explained that he was planning to make Augusta a "links in the wood" embodying the concepts of the classic links holes.**

**" At Augusta we are striving to produce eighteen ideal holes, not copies of classic ideal holes, but embodying their best features, with other features, suggested by nature of the terrain."**

**In the article, he tells us specifically which holes were derived from which classic holes. The par three downhill 6th, for example, was inspired by the 15th "Redin" of the North Berwick Links, while the water hazard before the green of the 15th was from "Swelcan Bridge" on St Andrews' 1st.**

**According to Mackenzie, an ideal course provides the greatest number of players with golfing pleasure, and the key to ideal course design is "to demand strategy as well as skill from the player".**

**With its broad fairway with little rough, massive greens by the standard of those days (860m<sup>2</sup> on average) , and undulating terrain that was formerly a pair orchard, Augusta seems to have gone a long way toward realizing the ideal of Mackenzie and Jones. Augusta was opened in 1933, but it underwent repeated remodeling as the venue of the Masters which began the following year. It is now generally believed that no single hole retains its original design. R.T. Jones Sr. gave it a drastic remodeling in the 1950s, and the short rough known as "the second rough" was added two years ago. It would be incorrect to say that the only originators of strategic design were Dr. Mackenzie, H. Colt and C. Alison.**

**C. B. Macdonald, who introduced course architecture to the United States, A. W. Tillinghast, H. Wilson and other architects who were active in the 1910s and 1920s also incorporated into their designs the strategic features they had learned from the classic links. Among a group of architects from the East commonly referred to as the "Philadelphia school", George Thomas had his own unique style.**

**Born to a wealthy upper class family in Philadelphia, George Thomas Jr. (1873-1932) inherited his father's property and never worked for money at any time in his life. He spent his entire life in the pursuit of interests that included golf and architecture - as well as rose culture, hunting and fishing after he moved to California. His most important design works include the Riviera, Belle Air and Los Angeles. He became a close friend of Mackenzie while living in the East.**

**Known as "Captain" after serving as lieutenant in World War I, Thomas published his "Golf Architecture in America: Its Strategy and Construction" in 1927. In this unique essay on golf architecture, he says:**

**"Strategy is the soul of the game. The spirit of golf is to dare a hazard, and by negotiating it reap a reward. "**

**Thomas had the experience of being shot down three times when he was a fighter pilot in the air force, and is said to have originated the phrase "risk and reward". Mackenzie already had the idea that at least one of the 18 holes be laid out in such a way that the player could aim for a big shot. However, Thomas was the first to give theoretical support to a hole layout such as that of the 5th of Mackenzie's Mid Ocean, in which the player is required to diagonally cross the sea.**

**This type of layout, in which the player is required to carry a hazardous area, is referred to as the "heroic school", or more commonly as "bite-off", by later historians. If the player has the skill to overcome the hazard, he will find his ball in a favourable position for his second shot. On the other hand, a player not capable of making such a long shot has the alternative of taking a roundabout route that will cost him an extra shot.**

**R. T. Jones Sr. created many such holes, making use of water hazards and steep-walled valleys.**

**As described above, there seems to be a historical sequence in golf course architecture: the "penal school" of the links age; the "strategic school" of British architects such as H. Colt and A. Mackenzie, who brought in the concept of strategy in golf architecture around the world based on their study of classic links; and the "heroic school" of Philadelphia which is an extension of the "strategic school".**

**This, of course, is a commentator's view. The architects themselves were probably not interested in such categorization when they were working on their designs.**

**And in any case, golf architecture always depends basically on the terrain.**

**In his "Scotland Gift, Golf", Macdonald says:**

**"There can be no really first-class golf course without good material to work with. The best material is a sandy loam in gentle undulation, breaking into hillocks in a few places.**

**Having such material at hand to work upon, the completion of an ideal course becomes a matter of experience, gardening and mathematics."**